

5月例会は「扉をたたく人」

定例総会議案の要旨

例会のお知らせ

- 名称／第48回例会「扉をたたく人」
- 日時／5月19日(水) ①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～
- 場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)
- 受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。



(C) 2007 Visitor Holdings, LLC All Rights Reserved

【例会作品データ】

- タイトル／扉をたたく人
- 監督／トム・マッカーシー
- 出演／リチャード・ジェンキンス、ヒアム・アッバス、ハーズ・スレイマン、ダナイ・グリラ、マリアン・セルデス、マギー・ムーア、マイケル・カンプステイ、リチャード・カインド、アミール・アリソン
- データ／2007年、アメリカ、1時間44分、16mm、ドラマ／ヒューマン
- 解説／コネチカット州で大学教授をしている62歳のウォルター(リチャード・ジェンキンス)は、妻を亡くし、心を閉ざしていた。ある時、学会のためにニューヨークに出張し、滞在のために別宅のアパートを訪れるが、そこには見知らぬ外国人のカップルがいた。ふたりはジャンベ奏者のシリア人の移民青年タレク(ハーズ・スレイマン)と、アクセサリーを作って売るセネガル人のゼイナブ(ダナイ・グリ



(C) 2007 Visitor Holdings, LLC All Rights Reserved

ラ)で、詐欺にあつてウォルターの家を貸されたのだった。やむを得ず共同生活を始めた彼らだったが、陽気なタレクはウォルターに“ジャンベ”と呼ばれるアフリカンドラムの演奏法を教え、ストリートセッションに誘った。ウォルターは初めての体験に充実感と共鳴をおぼえていく。しかし、タレクは地下鉄無賃乗車を疑われて逮捕され、不法滞在を理由に拘束されてしまう。何とかして彼を釈放させようと奔走するウォルターの前に、タレクの母であるモーナ(ヒアム・アッバス)が現われる。初老の大学教授とアラブ系青年が、アフリカンパーカッションを通して友情を深めていくさまを描いた感動作。名バイプレイヤーとして知られるリチャード・ジェンキンスが67歳にして初主演を務める。

2010年度定例総会議案の要旨

このニュースの発送作業直後4月27日(火)午後7時に、2010年度の加古川シネマクラブ定例総会が開かれます。承認された報告と議決の内容は、総会終了後、5月例会参加者には会場で、欠席の会員には7月例会案内とともに郵送で送付します。ここでは、総会議案の要旨を伝えます。

まず、2009年度の活動報告と決算報告ですが、経費面で圧迫され、会員及び例会参加者も少し減少していますが、例会を中心とする活動は、ほぼ順調に行えました。今までお知らせしてきたとおり、会員数が約160人に減少し会費収入が減少している中、例会作品を安価なものを選び、事務経費も関係者の

協力とご負担のおかげで、単年度で約5万円の赤字に抑えることができ、前年度までの繰越金約12万円との差額、約7万円の繰越金が残っている状況です。

次に、新年度の役員についてですが、運営委員の一部が仕事や生活の変化に伴い少なくなる見込みです。また、お隣の明石映画サークル協議会が活動できない状況になり、両方の会員であった加古川シネマクラブの一部の役員を含む新しいメンバーで、明石シネマクラブを設立し運営していくことになりました。このことが主な理由で、加古川シネマクラブの代表委員を含む役員に変更がある見込みです。新役員については、次回のニュースでお知らせします。

そして、2010年度の活動計画と予算ですが、2009年度の会員数では、1年後か2年後にこの会が活動できない状況になることが考えられる中、会員数の微増と2009年度並みの緊縮体制で予算案を組みましたが、例年どおり例会と映画上映会への協力は行いますが、その他の事業については、赤字になった場合の危険性を考えると、積極的には行えない雰囲気です。9周年の上映会と討論会のイベントの提案もあり、収支のバランスがとれるところまで考えられれば、実施する方向ですが、しばらく計画を話し合うことになっています。

全国映連総会参加報告

東京のサクラが満開となった4月3日と4日、全国映連の総会があり、参加してきました。総会中に開催された全国映連賞贈呈式には、男優賞の渡辺謙さんと三浦友和さん、女優賞の小西真奈美さん、特別賞の長沼六男（『沈まぬ太陽』『武士の一分』などの撮影監督）さん、羽田澄子監督が出席してくれて、ミニパーティでは、それぞれ参加者に囲まれて様々な話がなされ、かつ2ショット撮りまくりで熱気ムンムンとなりました。渡辺さんとは、ちょうど直前に放映された山田太一脚本のドラマの話をし、小西さんとは『のんちゃんのり弁』の舞台となっ



三浦友和さんあいさつ

いた下町の話をしました。背が高くて、映画以上にさわやか、でした。やっと捕まえた友和さんと2ショットのポーズをとったところでカメラ

の電池切れ。こちらは残念だったので、友和さんはずっとも残念がってくれませんでした（当たり前か）。

もうすぐ還暦とのこ

とでしたが、若々しくてホントにかっこよかった。長沼さんが7年振りに喫煙を再開したことに拍手を送り、羽田さんとはお久しぶりの挨拶をして、アツという間にお開きとなりました。

総会では、鑑賞運動、上映運動を主なテーマに各地の意見交換がなされましたが、どことも会員拡大では大きな成果を出せずに苦勞しているようでした。それでもジタバタやっているようなので、加古川もジタバタぐらいは続けていくしかないか、と改めて思ったりしました。全国あちこちに、同じようなことをやっている仲間がいるのは励みでもあり、次は7月に松山で開かれる映画大学での再会を期して、散会しました。（健）

前回例会の報告

3月16日の例会では、『ディア・ドクター』を鑑賞しました。参加会員133人。『おとうと』をはじめ最近の作品で好演する笑福亭鶴瓶主演の話題作でもあっただけに、興味深く鑑賞することができました。

老人に対する医療、僻地問題、家族の病氣と死など、複雑なテーマが絡み合っているだけに、参加者からの意見を見ても、作品に対する評価は良かったのですが、考えてしまう部分も多く、痛快娯楽作品ではない、この作品の特色がよくわかりました。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数167人(3月19日現在)